



# 当院の内服抗菌薬の 使用状況と問題点

地域医療支援病院 オープンシステム 徳山医師会病院

©渡邊 なつ美、有馬 由美子、中村 美紀、福江 宣子



TOKUYAMA MEDICAL ASSOCIATION HOSPITAL

# 日本環境感染学会 COI 開示

発表者名：◎渡邊 なつ美、有馬 由美子、  
中村 美紀、福江 宣子(◎代表者)

演題発表に関連し、  
開示すべきCOI関係にある企業などはありません

## 【緒言】

AMR対策の一つとして抗菌薬の適正使用が重要とされ、国内でも様々な取り組みが行われている。その中でも内服抗菌薬の処方件数が9割を占めており、これらを適正に使用することが抗菌薬の適正使用を大きく前進させることに貢献すると考えられる。

当院における内服抗菌薬の使用状況、及び大腸菌の耐性化率を確認し、現在の問題点を明確にするとともに、今後どのような働きかけを行っていくと良いかを検討することとした。

## 【方法】

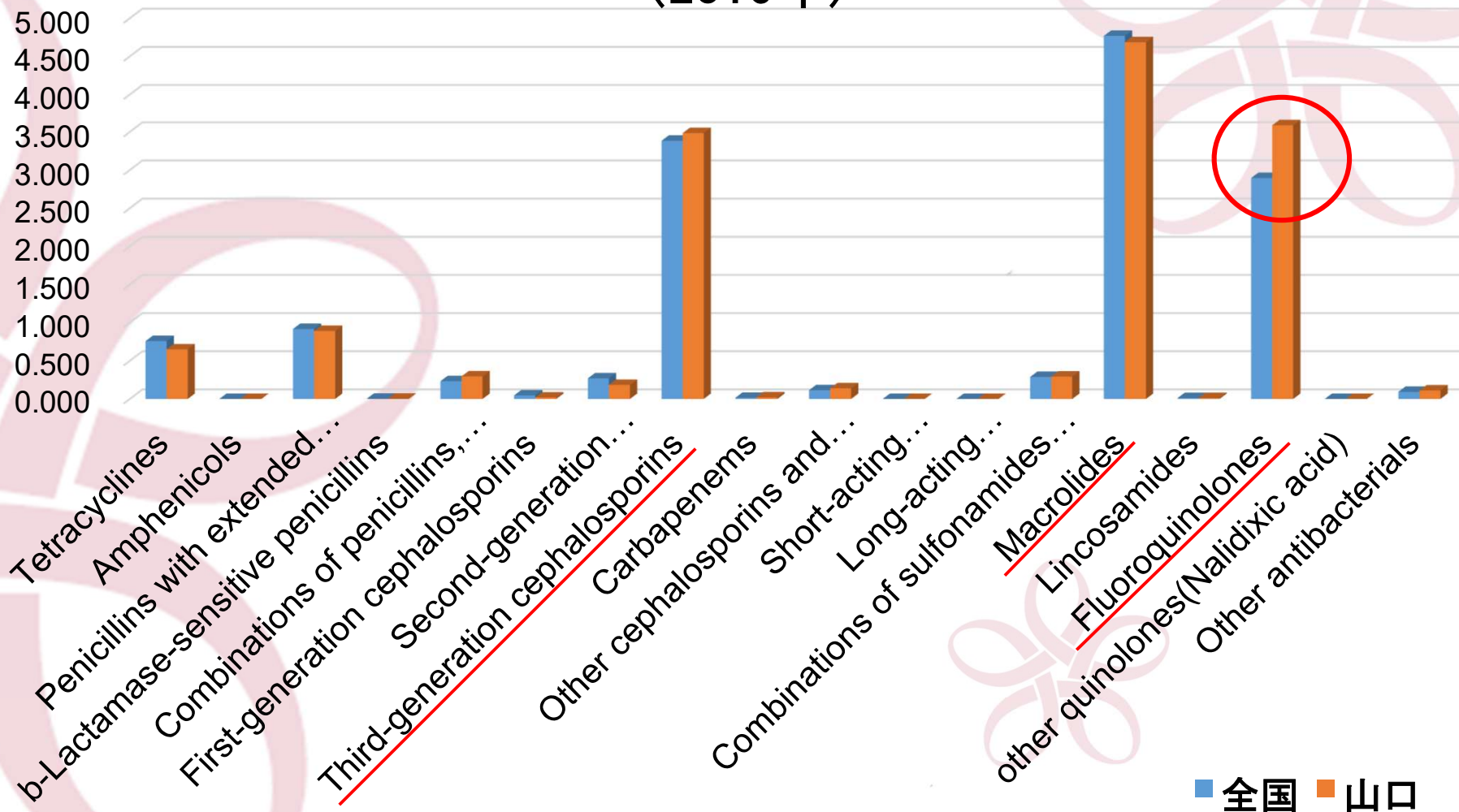
当院における内服抗菌薬の使用状況を確認するため、以下のデータを収集した。(2018年5月～2019年6月)

- ①当院で処方された内服抗菌薬の種類及びその数量
- ②処方医の所属科
- ③処方理由
- ④各月における処方箋枚数 及び

調剤基本料又は処方箋発行料を算定した患者数  
また、検査科において以下のデータを算出した。

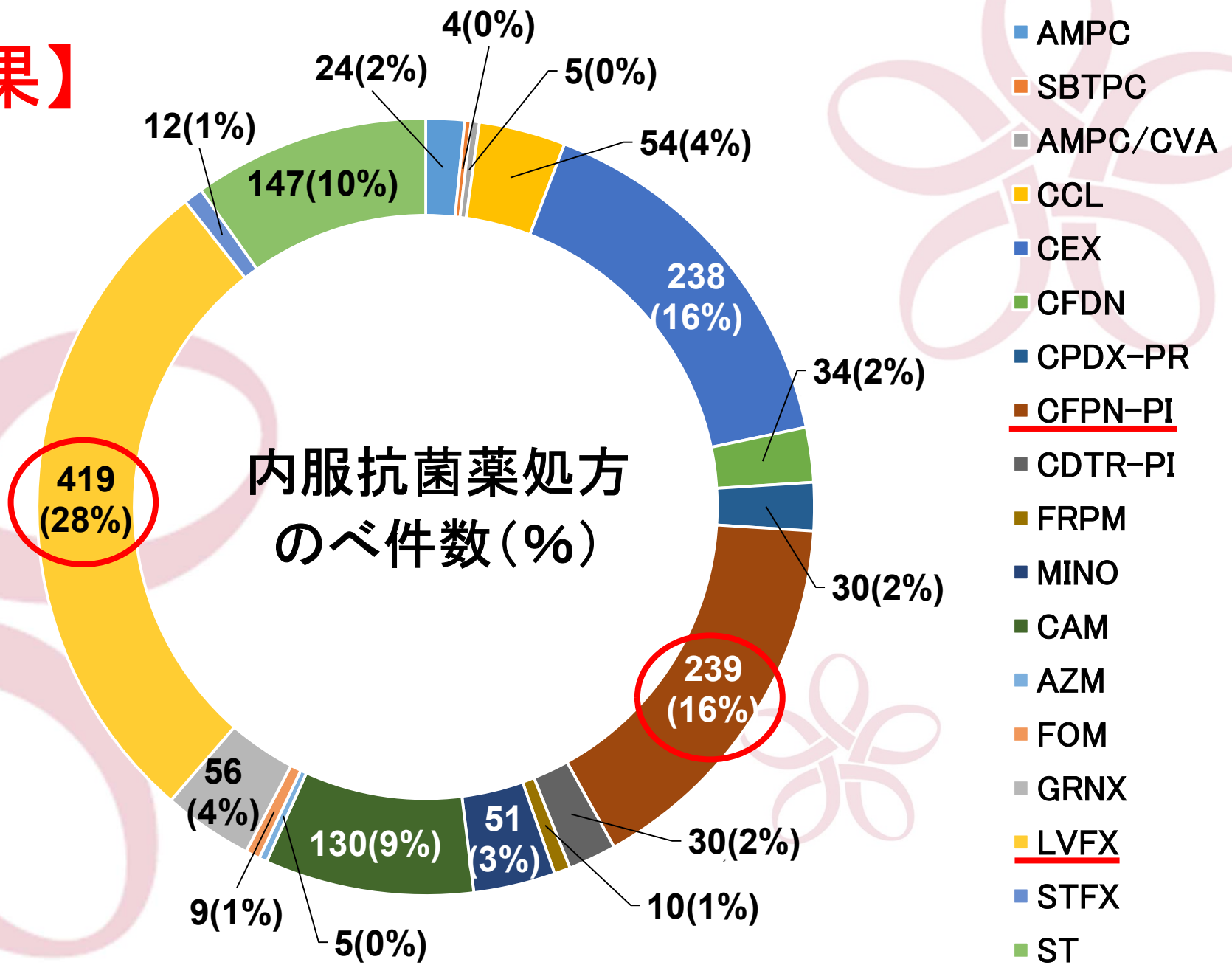
- ⑤当院培養検査における大腸菌の薬剤耐性化率

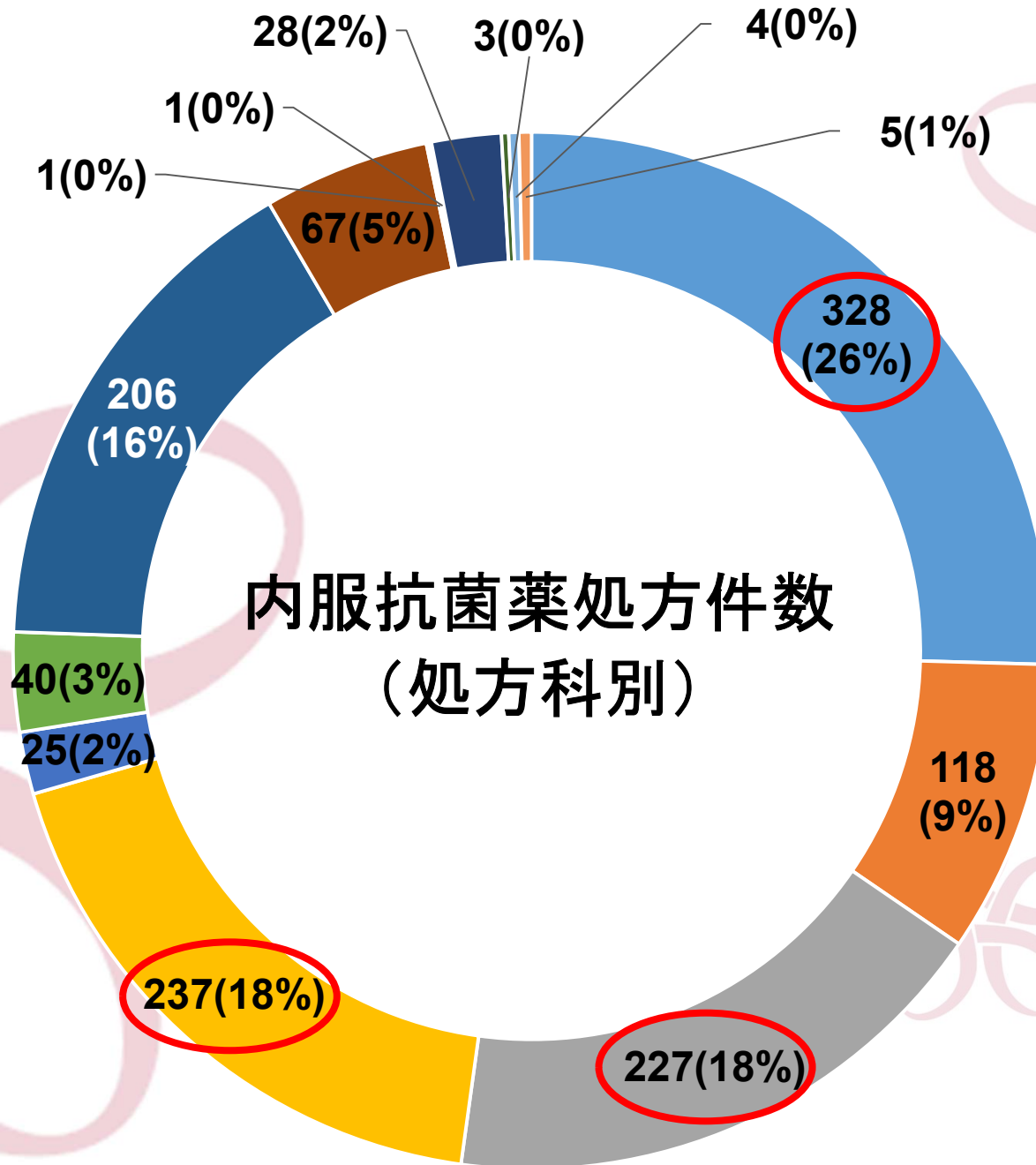
# NDBをベースとした内服抗菌薬使用量サーベイランス (2016年)



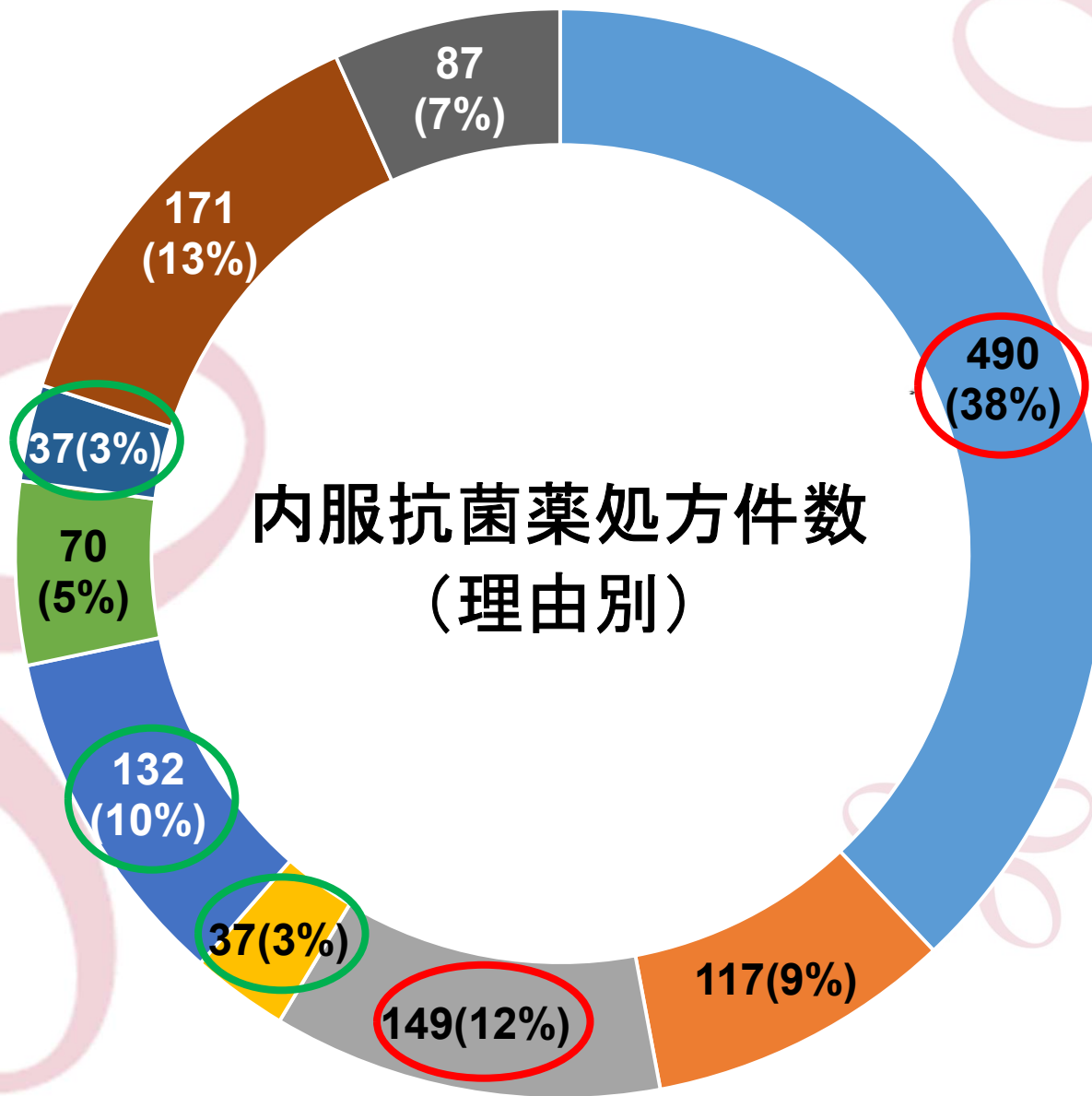
※AMR臨床リファレンスセンターWebサイトよりデータの一部を使用

# 【結果】





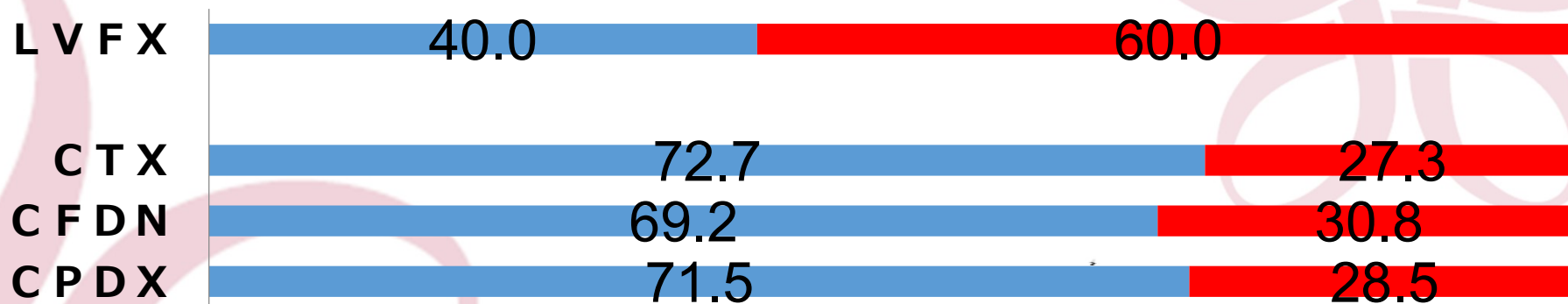
- 内科
- 外科
- 整形外科
- 泌尿器科
- 脳外科
- 婦人科
- 眼科
- 耳鼻科
- 呼吸器科
- 放射線科
- 神経内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- その他



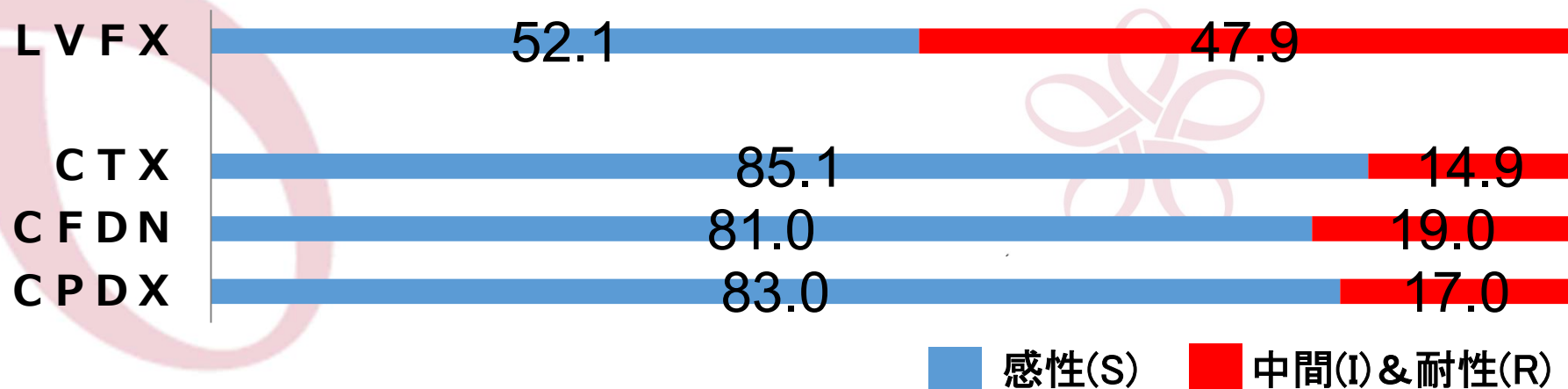
- 術処置後
- 呼吸器感染
- 泌尿器感染
- CRP上昇
- 発熱
- 感染予防
- 風邪
- その他
- 不明



# 徳山医師会病院 入院患者における 大腸菌の耐性率(%)



# 徳山医師会病院検査室 受託患者における 大腸菌の耐性率(%)



# < 当院における問題点 >

- レボフロキサシンの処方率が高い  
→本当に必要か？他に使える薬剤は無いか？
- 最も多い処方理由が術後・処置後である  
→手の外クリニカルパスを作成  
白内障術後の内服抗菌薬を中止
- 「CRP上昇」「発熱」「風邪」での処方がある  
→培養検査をするよう啓蒙

## 【結論】

当院では内服抗菌薬の中でもレボフロキサシンの処方率が高く、大腸菌の同薬の耐性率が高いことから、レボフロキサシンの適正使用を重点的に行うことが必要と考える。内服抗菌薬全体で不適切な処方理由が認められ、処方医への適正使用の周知を実践することも重要である。

また、術後・処置後の処方については「術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン」を参考に、クリニカルパスを作成したので、今後の動向を確認していく。